

平成 29 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1275900122		
法人名	医療法人社団 慈優会		
事業所名	グループホーム日の出		
所在地	千葉県山武郡九十九里町片貝2582-9		
自己評価作成日	平成29年10月15日	評価結果市町村受理日	平成30年1月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生1107-7
訪問調査日	平成29年11月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

海が近く自然豊かな良い環境の下、ご利用者様一人ひとりへの思いやりと尊厳を大切にし、穏やかで安全に安心して生活して頂く為に、経験豊かな職員全員が日々のケアに携わり、そしてターミナルケアまで対応できる介護体制をとっています。隣接する九十九里病院とは24時間協力医療連携を整え、万全を期しています。
また、地域包括センターとの連携を図り、認知症家族の会への参加により、地域の方への理解を深め、地域の方には当施設の理解をも深めて頂くよう努力を重ねています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体法人である病院がホームに隣接している。利用者の健康管理や夜間・緊急時の対応、さらに防災についても連携が取れており、利用者や家族の安心につながっている。また、安全対策、感染症対策、褥瘡対策、イベントなどについては委員会を設置して検討している。ホームでは職員の研修参加や資格取得も積極的に促し、職員の育成に力を入れているホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ユニットに事業所の基本理念を掲示し、職員全員が意識しながら、利用者へ介護提供できるように努めている。	職員は理念を意識しながら支援するよう努めており、毎月のカンファレンスなどでも話し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の産業祭や小学校の運動会などへ参加し、交流を図っている。	地域の認知症家族の会「あんとんねえさ〜」に参加し情報交換をしている。また、運営推進会議には地域住民や民生委員などが出席しており、地域の情報をもらっており、「餅つき大会」や「産業祭」に参加している。地元の中学生に実習の場も提供している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症家族の会への参加等で助言をおこなっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日頃の取り組み状況を報告し、意見をききながらサービス向上に努めている。	地域住民、民生委員、市町村担当課職員、地域包括支援センター、系列病院などからの参加を得て年6回開催している。会議で出た意見については、支援に活かすよう努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町役場担当者との連絡を密に取り、利用者の相談や空室状況などを伝え、協力関係を維持している。	地域包括支援センター主催の「地域ケア会議」に参加している。市町村担当者には相談したり情報交換できる関係性を構築している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修への参加を積極的に行い、知識を得ながら現場での対応をスタッフ間で共有し、身体拘束廃止に向け検討を重ねている。	外部研修、内部研修で身体拘束について学んでいる。また、報道されたニュースなどを事例に会議で話し合うなどして、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修への参加と、スタッフ間での意識を高め、利用者の全身状態の確認を、特に入浴時など注意して行っている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修への参加で得た知識を現場で共有している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に規約等の十分な説明を行い、合意の下で契約を行っている。更に必要に応じ、説明を行い、理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族からの投書受け入れも行っている。ご家族・ご本人の要望はその都度受け入れ、可能な限り対応をする努力を行っている。	運営推進会議や家族来訪時に意見を聞くようにしている。また、居室担当職員は毎月家族に手紙を送るなど、日頃から意見が言いやすい関係性をつくるようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議やユニットカンファレンスを毎月1回行い、意見交換しながら反映させている。また、個々に意見がある時はその都度相談に応じ、反映できるよう努力している。	月1回のユニットカンファレンスが意見を聞く場となっており、職員間で共有し、検討反映に努めている。最近では業務の流れや時間の効率化について意見が出され、反映した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	有給休暇の利用、勤務希望の確保、職員の人員基準の確保、時間外手当など職場環境条件を常に整える努力を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修や、九十九里病院内での勉強会への参加を勧め、また、経験豊富な職員からのケア指導を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症家族の会や、地域密着ケア推進会議などに参加し、知識を増しながらサービス向上の努力を行っている。		

【評価機関】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	コミュニケーションを図り、情報を得、スタッフ間で共有しながら、ニーズを探り、安心できる関係を作るよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時には現情報を詳しくご家族に聞き、その後は面会時にコミュニケーションを図りながら良い関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネージャーと連携して情報共有し、サービスを検討し、ケアプランに沿って対応を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	身体を動かしたり、家事を行ったり、出来る事を共に行う事で関係が築けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	お便りなどで状況報告を行い、面会時は、ご家族と気軽に会話ができる様に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人など、面会のしやすい環境を整えている。	家族や親せき、友人などの来訪を歓迎しており、時には管理者や職員が話に入ることもある。また、ホームに入居してからも利用者にとっての新たな馴染みの関係や場所をつくっていきたいと考えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ユニット間の交流や、座席についても、定期的に話し合い、考慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も必要に応じて家族からの相談は受け入れ、支援出来るようにしている。 また、入院となった場合も面会を行うなど取り組んでいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	言語だけではなく、表情、仕草からも気持ちをくみ取る努力をしている。	入所時に利用者や家族から、日常生活意向表で聞き取りをしてくる。また、普段の会話や表情、仕草からも気持ちを感じ取ったり、本人の意向を推察したりして、本人の気持ちに沿った支援ができるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族より聞き取り、スタッフ間で情報を共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝のバイタル測定にて身体状況を把握し、一日の経過を更に観察している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランに沿ってケアを行い、問題があれば、必要時にカンファレンスやサービス担当者会議を行い、ケアプランへ反映している。	ケアマネジャーが利用者の担当職員や管理者から聞き取りをして、利用者や家族の意向を踏まえ案をつくり、サービス担当者会議で決定している。また、6か月に1回見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活の様子を日々記録に残し、夜勤者・日勤者間の引継ぎや、その日の勤務スタッフ間で情報を共有している。必要時はミーティングでプランの見直しへ働き掛けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズに合った柔軟な対応を行う様努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括センターや役所との連絡を取りながら、安全で安心な生活が送れるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	九十九里病院との連携を密に行い、月2回の訪問診療は確立しており、また、ご家族の同意を得ながら、緊急時など適切な医療を受ける事ができている。	母体法人が病院であることから、利用者全員が同病院の医師をかかりつけ医としている。専門医のかかりつけについては、家族に対応を依頼しているが、場合によっては職員が同行し、情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常、利用者の身体の変化や特別な訴えがある時は、報告・相談を行い、指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	九十九里病院と連携をとり、退院までの間は毎日面会に伺い、情報交換に努め、病院との関係づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時には、看取りも含めた説明をご家族に行っている。重度化、終末期となった場合は、家族・医師・施設側との話し合いを行い、方向性を決める取り組みを行っている。	入所時に家族に看取りができることを説明している。職員にも看取りについての研修を予定している。重度化した場合は、家族、看護師、医師や管理者とよく話し合っ対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	上級救命講習を受講し、急変や事故発生時に適切な対応が出来るようにしている。九十九里病院での勉強会への参加もしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	半年に1回消防署と連携した、防火・防災避難訓練を行っている。隣接する九十九里病院との協力体制もできている。	年1回消防署の指導で消防訓練を行っている。避難訓練は、地震と津波を想定して、法人母体の病院と協力して訓練を実施した。利用者の食料(キザミ食やトロミ食を含む)の確保はできており、飲料水は備蓄している。また、母体病院の協力も得られることになっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の人格を尊重し、誇りなど損ねないよう声かけを行っている。	今年度は、利用者の尊厳を守るために、「接遇」を目標に掲げ取り組んでおり、職員会議などでも繰り返し学習している。声掛けも注意しており、場合によってはリーダーと一緒に支援方法を考えることもある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が自ら決定できるように話しかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入所前の本人の生活ペースを、できるだけ崩さないように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みの応じて対応し、女性は外出時の化粧や、2ヶ月に1回の美容師訪問でヘアカットを希望に応じて行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の味付けや盛り付けを工夫し、食後のテーブル拭きや食器拭き、片付けなどを一緒にしている。	職員も利用者と一緒に食事を楽しんでいる。イベント委員会を設置しており、行事食は利用者の希望も聞きながら考えるなど、食事が楽しいものになるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの嚥下状態に応じた食事形態にし、食べやすい箸やスプーンを選び対応している。 食事摂取量・水分摂取量をチェック把握し、必要量を維持できるよう対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを促し、確認を行っている。自力でできない利用者は介助を行い、義歯の手入れも実施している。必要時は訪問歯科との連携もとっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間でのトイレ誘導以外にも、個々の排泄タイミングをみながら習慣化し、出来るだけトイレでの排泄を促すようにしている。立位困難な場合は2名で介助を行っている。	一人ひとりの排泄状況を把握し、時間を見て誘導したり、様子を見て声かけをして、排泄の自立に向けて支援している。習慣化することで、入居後何年もして、自らトイレに行くようになった事例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ラジオ体操を行ったり、牛乳・ヤクルトや水分摂取も促して便秘予防を行っている。困難な便秘症状には下剤服用もやむを得ず行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	3日に一度の入浴日・時間を決め、実施しているが、個々の体調や気分によっては時間や入浴日の変更も行い、無理のない対応を行っている。	週2回入浴を基本としているが、個浴槽でゆっくりとお湯につかってもらうことを大切にしている。入浴をしたくないという利用者には時間や曜日を変えて声掛けするなどして清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本はベッドでの休息を促している。快適に休めるよう室温や照明などにも配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎月2回の訪問診療時に利用者の状態を報告し相談も行い、薬の処方を実施。薬局から薬剤師の参加もあり、薬効・副作用など相談できる体制をとっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節に合わせたイベント、誕生会を実施し、参加できている。日常では、個々の力量に合わせ、職員と共に食器の片付けや、洗濯物の整理、園芸、草花への水やり等、気分転換を心がけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や庭の花への水やり、家族との外出、地域のイベント(産業祭・運動会)への参加など、出来る限り利用者全員が参加できるよう工夫しながら支援している。	近隣の散歩や季節のお花見、初詣などに数回に分かれて出かけるようにしている。家族と出かける利用者も多い。	今後外気浴なども計画しているので、実現が期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理は事務所でやっているが、イベントでの外出時は、可能な利用者には個々にお金を持たせ、希望に沿って使えるようにしている。日常でも購入希望の品がある時は、使える様配慮している。ご家族への報告も行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	施設内の公衆電話を利用し、利用者がいつでも電話をかけられる状況にある。利用者の希望があれば、手紙の送付も配慮できている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内床は木材を使用しており、ぬくもりを感じられるよ様配慮している。また、季節ごとに掲示物を変え、利用者の作品も掲示し、楽しめる様な工夫も行っている。	共用空間は温度、湿度を適切に保つようにし、清掃も行き届き清潔で居心地のよい空間になるようにしている。訪問時にはクリスマスに向けて利用者や職員が装飾を準備しているところであった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事時や趣味の時間など、気の合う利用者同士で過ごせるよう、席次に配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は本人が居心地よく過ごせるよう、身体状況に合わせてベッドの位置や高さを変えられるなど、また本人の希望も取り入れ、工夫をしている。	居室は洗面台とクロゼットを設置している。各居室は使い慣れた家具やテレビが持ち込まれ、カレンダー、写真などを飾るなど、思い思いの部屋となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者が行える能力を活かすため、洗濯物たたみや食器拭き、鉢植え、花の手入れ、水やりなどを行っている。		